

棚田に吹く風

2014
春
Spring
季刊

- 
- 2 特集
棚田と桜
- 5 フォトエッセイ
光と風の中で
- 6 棚田・里山からのたより
集落の全戸で取り組む
地域活性化と棚田保全
千葉県鴨川市川代地区
- 8 « 田んぼに入る絵描き »の
棚田見聞録
棚田を食べよう
- 9 棚田博士は今日も行く
雨飾山を仰ぎ見る緩斜地水田
新潟県糸魚川市根知谷
- 12 会員のひろば
- 14 棚田ネットワークの
かつどうノート
イベントレポート
- 15 Project Report



特集

棚田と桜

桜の語源は一説には、サ神という山の神さまが、春になると田の神さまになって里に降り、その時クラ（座）として依代にする木であるからと言われます。桜を愛さずにはいられない私たちの心は、祖先から伝わる稲作への思いからなのかもしれません。棚田と桜のシンフォニー、どうぞご堪能ください。

坂折棚田と桜

岐阜県恵那市

4月下旬、坂折^{さかわ}棚田では山桜が満開となり里山に彩を添えます。田んぼにも水が満たされ、オタマジャクシなど里山の生き物達も動きが活発となり、躍動感溢れる光景が見られるようになってきました。四方を山々に囲まれた坂折地域にはソメイヨシノは見られず、そのほとんどが山桜です。そのことから400年以上の歴史ある棚田であることがうかがい知れ、里人が桜を大切に守り自然と共に生きてきた息遣いを感じることが出来ます。しかし里山と称されているような中山間地では、高齢化や耕作放棄が著しく、何もしないでこのまま放置していればこの美しい原風景もたちどころに消え去ってしまいます。

幸いにも坂折棚田では、棚田オーナー制度などを活用し保存活動も盛んです。山桜咲くこの美しい里山の原風景を後世に引き継いでいって欲しいものです。

愛知県大口町 写真愛好家 伊藤 憲男



榎平の棚田と桜

山形県朝日町

くぬぎだいら

榎平の棚田を一望できるおすすめの方法といえば、小高い丘の頂上にある松の古木を讀える「一本松公園」でしょう。榎平を開墾した先人たちが田んぼを見下ろし、ひと鎌ひと鎌ながした汗とかけた時間をふりかえる。ここはそんな場所だったことでしょう。

そして山形県朝日町の最上川左岸は、昔からヒメサユリが自生するところ、この公園はその一角にあります。淡く薄いピンクの花は、とても可憐で昔からみんなの心のより処になっています。この特別な場所に日本人の心の象徴といえる「桜を植えよう」となったのはとても自然な流れだったのかもしれない。

桜の開花は、奥山の残雪、芽吹きを待つ里山、百姓たちが田んぼに出没しはじめる頃と重なります。東北の遅い春を告げる、榎平の桜に会いに「どうが、ござってけらつしやい（どうぞ是非、お越しくださいませ）」。

山形県朝日町 阿部 忠之



蒲生棚田と桜

新潟県十日町市



十日町市松代地区で、桜で有名な棚田は儀明だ。蒲生と儀明は隣り合わせのような関係にある。蒲生は棚田の斜面を俯瞰する展望台からの見晴らしが良いので、星峠の棚田と並んで有名。しかし蒲生のこの写真の桜を知っている人は少ない。この大きな白い桜は展望台からでは見ることができない。満開の時に天気がよく風がなければ、田んぼに映ってきれいだしといわれる。それで何度か行ったが、よい機会に恵まれなかった。そしてこの桜が映り込む田んぼの所有者からいただいた今年の年賀状には、高齢のため耕作放棄せざるを得なくなつたと書かれてあつた。草ぼうぼうの耕作放棄田では桜が映り込む水面はもうないのだろう。昨年は十日町に行く機会がなかった。一昨年、儀明はかなり荒れて見えた。まさか耕作放棄ではないと思うが…。

神奈川県川崎市 萩谷 敦

内成棚田と桜

大分県別府市



雪の降ることの少なかった九州大分は、今年は雪に悩まされました。人口の少ない私たちの地域では3日間も交通が遮断され、住民総出で雪かきや、倒伏した竹や灌木の片付けに追われ、簡易水道の復旧などに時間を取られました。

そんな中、いつものように梅の花が咲き、少し早めに咲き始める緋寒桜、スモモ、モクレンと次々に春を告げる花が華やかな雰囲気を出してくれと、春のシイタケの収穫も最盛期を迎えます。里山のヤマザクラが今年も元気に咲き、ソメイヨシノの花を眺めての花見が終わると、九州では6月初旬からの田植えに向けて、そろそろ苗代の準備が始まります。

今年も美味しいお米を待つてくれている人たちの顔を思い浮かべながら、汗を流すことにします。

大分県別府市 後藤 幸彦

中沢の棚田と桜

長野県駒ヶ根市

長野県駒ヶ根市中沢の天竜川沿いの桜並木が満開でした。緩やかな棚田が広がり、白きたおやかな中央アルプスが見えます。まだ田植え前で棚田には水が入っていません。

しばらくすると中央アルプスに雪形が見られます。雪形は古来より、農家の種まき時期の目安として地元の人々に口伝されてきた農事暦です。雪形には、農業の中で最も重要な稲作と結び付いた「種まきじいさん」の類が多く、その次に「僧」が続きます。動物の類では農作業に欠かすことのできない「馬」「駒」が多く見られます。正面の南駒ヶ岳の稜線に雪形「五人坊主」が見え始めると、「代掻き」「田植え」が始まります。

東京都府中市 今井 英輔



石部棚田と桜

静岡県松崎町



駿河湾越しに富士山を望む松崎町の石部棚田に春が訪れる頃、周囲の山々の桜の白さが目にまぶしく感じられる。

桜は、木炭の原木として山に植えられ、かつては「伊豆炭」として松崎の港から多く出荷されていた。また、切り株から出た若葉は、桜葉漬けにも利用され、子どもの頃の小遣い稼ぎになったとも聞く。現在では、炭焼きの光景をほとんど見ることはできないが、山の畑に植えられた大島桜の葉の塩漬けは、全国シェア70%を占める町の特産品として、甘い香りを漂わせている。

石部棚田では、桜の開花とともに田んぼに水が引かれ、田植えに向け、本格的な作業が始まる。棚田と桜の織りなす風景。まさに、春ならではの里山の風景である。

静岡県松崎町 山本 公



煌めくさざなみ

千葉県鴨川市 大山千枚田

千葉県の最高峰は、南房総嶺岡山系の愛宕山である。その山懷に日本棚田百選の一つ、「大山千枚田」がある。千枚田から望む嶺岡山の裏側にあたる地域で生まれ育った私は、東京に出てからは全国各地を撮影して歩いて来た。人生の半ばを過ぎた頃から、「ふるさと再発見」をテーマにあらためて故郷を見つめ直したい、そんな想いで私の視点はふるさと指向へと次第に変化して行った。折しも、「大山千枚田」が日本棚田百選に認定され、何の変哲もなかった棚田が一躍脚光を浴びるようになり、以来私のライフワークの一つになった。

「大山千枚田」の地形的特徴は、大きく湾曲したいくつものエリアの中で、さらに小さな起伏が見事なまでの不連続な畦のラインを生み出しているところにある。自然ゆたかな、嶺岡山系を水平線に従えたロケーションから繰り出される、四季折々のドラマチックないつときのシーンは、現場に居合わせた者にしか味わう事のできない至福の時間でもある。

近年地球の温暖化が問われる中、冬でも暖かい南房総はひと昔前よりは積雪のシーンは減少傾向にある。それでも数年に一度程度は「大山千枚田」は積雪をみることがある。今年(2014年)の2月は2度の大雪があり、降りしきる雪の中での撮影も帰路の安全運転を考慮して早々に引き上げる程であった。

掲載の写真は畦に残雪の残る午後、風光るさざなみの一瞬である。

フォト
エッセイ
光と風
の中で
写真・文
水田 稔



水田 稔 みずた みのる

1947年千葉県鴨川市生まれ。
報道写真家浜口タカシ氏(二科会写真部審査員)に師事。大山千枚田をはじめ、千葉県指定重要無形民俗文化財の北風原羯鼓舞、吉保八幡神社流鏝馬を継続取材中。

2010年から、スイスの大自然とヨーロッパの世界遺産を撮影中。2013年から、江戸幕府直轄地・「嶺岡牧」(鴨川市・南房総市)の撮影中。「四季の写真」(学研マーケティング)に大山千枚田の撮り方を特集。写真集「大山千枚田百選」(人類文化社)・写真展「ヴァリスの白き麗峰」(フレームマン・ギンザサロン)他、個展多数

- JPA・日本写真作家協会会員
- フォトグループ「MEW」代表
- 「水田稔写真塾」主宰

棚田・里山
からの
たより



集落の全戸で取り組む 地域活性化と棚田保全



上：心洗われる里山風景の中で田植え／下左：草刈り作業／下中：今年も豊作・稲刈り／下右：脱穀作業。ハーベスターを動かしてみる

千葉県ブランド米 長狭米の産地

千葉県鴨川市の川代地区は、長狭平野を流れる加茂川の右岸にあります。明治天皇の大嘗祭（注：即位後最初の新嘗祭・一代一度限り）の主基米に選ばれた長狭米の産地です。市街地から比較的近く、区画整備された大きな田んぼが何枚も広がっていて、春に水が入るとまるで湖のようです。

集落から少し西に進み、小さな坂道をおりて橋を渡ると、そこが川代の「柿木代の棚田」です。約60枚あります。棚田のオーナー制度が始まる前は、狭くて作りにくいため放棄され、三分の一ぐらいしか耕作されていませんでしたが、今では全部の田が復活しています。ここは、川の水や溜め池を利用しなくても、田んぼの水が間に合うほど湧き水が豊富です。

千葉県鴨川市川代地区

11年目に入った 棚田オーナー制度

市内では、幾つもの集落でオーナー制度が行われています。鴨川市が平成15年（2003年）に国に申請した「棚田農業特区」が認められ、市役所などが間に入らなくても農家が直接市民と契約を結ぶことができるようになったからです。

川代集落のオーナー制度は平成16年から始まりました。最初の頃は、未経験なため不安で、構えていたところもありました。今は自然体でやっています。今年はオーナーが25組ほどですが、一番多いときは50組近くも受け入れました。熱心なオーナーさんは開始以来ずっと継続してくれていて、お祭りに遊びに来たり、地域の人のようなお付き合いをしています。畑をやりたいという人もあり、4〜5人は夏場になると毎週のように来て

テントを張って泊まったりしています。

オーナーの作業は田植え、草刈り3回、稲刈り、脱穀です。出席率がよく、暑い盛りの草刈りのときも8割のオーナーさんが参加しています。このほか、種まき、水止め、代掻きなどの作業に自主的に参加してくれるオーナーさんいます。田植えの時に棚田の脇で鯉のぼりが泳ぐ風景はもうお馴染みです。

収穫祭は、川代地区の集会所もある勝福寺の境内で行われ、150人もの人が集まります。オーナーさんが企画する流しそめんがあつたり、地元の神楽舞が披露されたりして、とても賑やかです。ちなみに、

川代の神楽は鴨川市内の幾つかの神楽のルーツだといわれ、他地区の神楽が途絶えたときには教えに行ったりしたこともある、由緒あるものです。

地域のまとまりを生かして計画を実現したい

川代集落は65軒、200人ほどの人が暮らしています。地域のまとまりがよく、行事や作業の手伝いを呼びかけると人が集まり過ぎるほどです。それでも後継者の問題は避けて通れず、農業をやる人がいなくなるのではないかと心配があります。現在は、60歳代後半の元気な何人かがいろいろ相

談しながら、地域を活性化して次の代につなげたいと頑張っています。また、直接支払制度により交付される資金の3分の2を集落で管理し、活動に利用しています。

いま、棚田に隣接する小さな山を手入れして遊歩道を作ろう、という計画があります。川代だけでなく、他の地区とも力を合わせて適度な散策コースにしたい。四季折々に花を楽しめるように、桜やアジサイ、紅葉などを植えようという話も出て、一部は既に着手しました。休憩所やトイレを整備し、売店なども作れば、より魅力が増すでしょう。派手なことを打ち上げなくても、小さな経済をこつこ

つと積み重ね、都市から来る人も地域の人も互いに温もりが実感できる繋がりを、これからも目指していきたいと思っています。

※この記事は、川代集落代表の庄司祐輔さんへのインタビューをもとに構成しました。



収穫祭でのオーナーさんの企画・流しそめん



上：オーナーさんが勢揃い／中：御岳神社から熊野神社へ神輿が行く。集落内に神社が二つあるのは珍しい／下：川代集落代表、庄司祐輔さん

棚田へのアクセス

【公共交通】 JR外房線・安房鴨川駅下車。駅前より鴨川日東バスの釜沼方面行きに乗車。約10分の追分バス停で下車、徒歩約20分

【自動車】 アクアライン方面からは館山自動車道・君津IC下車。広域農道92号を鴨川方面へ。房総スカイライン、鴨川有料道路を経て大日交差点を右折、田原交差点をほぼ直進し川代へ入り約5分。君津ICから約40km、40分

お問い合わせ

棚田倶楽部 Tel.04-7099-9050
川代集落代表 庄司祐輔



へ田んぼに入る絵描き」の 棚田見聞録

佐渡市岩首、高坂の田（春秋
 図）です。岩首には小柴尾（「昇龍
 の田」とも言う）のような大きな何
 畛もある棚田もありますが、その
 西側の山中には木々に囲まれた、
 まるで隠し田の如き小棚田が点々
 とあります。しかも昔の形のまま
 現在も耕作されています。以前の
 見聞録で紹介した「観音堂の田」
 も、この小棚田群の最下段にあり
 ます。

高坂の田は、その少し上部にあ
 り、向かって左側が丘状地に田が
 作られています（Ⅰ）。また、続く
 右側は摺鉢状の地形に等高線型
 の田となっています（Ⅱ）。

毎年七月二十日頃に行われる
 棚田ネットワークの佐渡ボランティ
 アツアーでは、この岩首談義所が
 宿泊所となります。少し早起き
 し、散策でこの田を見てください。

また、二〇一六年（平成二八年）
 の全国棚田サミットの佐渡市での
 開催が決まりました。岩首の棚
 田も見学会のメインコースになるこ
 とでしょう。



高坂の田 Ⅰ (61×91cm 2013年8月)



高坂の田 Ⅱ (同左)

絵・文 酒井 英次



一合寿司

材料

- ① ごぼう、にんじん、シイタケ、
さつま揚げ、ワラビ、フキ、タケノコ
- ② 白米（6合）、米酢（180㍺）
砂糖（大さじ6）、塩（大さじ1強）

作り方

1 酢飯を作る

②をかき混ぜ寿司酢を作る。少し硬めに炊い
 たご飯を大きめのボウルに（寿司桶があれば
 尚良い）移し、寿司酢をまんべんなく全体に
 回しかける。少し待つて切るように混ぜ全
 体が混ざったうちうわで冷ます。

2 具を作る

①を細かくきざみ甘辛く煮る。

3 寿司づくり

寿司型（二合用）に2センチくらいの厚みで酢飯
 を平らに詰め、上に具をまんべんなく並べる。
 同様にまた酢飯を詰め、具を並べる。最後に
 もう一度酢飯を詰め、上から軽く押し固め
 る。型から抜いて皿に盛り、酢飯の上にかま
 ぼこや木の目、薄焼き卵など並べ飾る。

※砂糖等の分量は好みによって調整する



広島県
 安芸太田町
 井仁の棚田
 一合寿司

第一回



棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

雨飾山を仰ぎ見る緩斜地水田

新潟県糸魚川市根知谷



なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ
ト開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。



糸魚川市は新潟県の西端、フォツ
サマグナの西縁に当たる糸魚川・静
岡構造線が走り、ジオパークとヒ
スイの町として知られている。根
知谷は糸魚川市街地の南8^{キロ}にあ
る姫川の支流、雨飾山を源流とす
る根知川の谷底平野である。広告
代理店に勤める教え子、田中一郎
君の情報により耕作放棄された棚
田で酒米を作る酒造会社があるこ
とを知り、訪ねることにした。

急斜と緩斜が交じる水田地帯 圃場整備が完了し自動灌水

2013年11月下旬、東京から
上越新幹線とき号で越後湯沢まで
行き、ほくほく線・北陸本線を見る
はくたか号に乗り換え糸魚川へ向
かう。糸魚川では大系線南小谷行
の列車が待っていた。1輛編成の

列車は椅子席をほぼ埋めるほどの
乗客を乗せ、姫川の上流に向かっ
て塩の道に沿って南下する。

糸魚川から3つ目の無人駅が根
知である。駅は根知谷の入口、根
知川の最下流部の集落根小屋の西
端にあり、歩き始めるとすぐに根
知谷の水田が現れる。上流に目を
遣ると、手前に威圧するような
荒々しい山容の根知駒ヶ岳(標高
1498^{メートル})、その奥には雪で真っ
白に化粧した百名山の一つ雨飾山
(標高1963^{メートル})が陽光を浴び光
り輝いていた。

根知谷の根小屋から山寺までの
中・下流部は、長さ5^{キロ}、最も広
いところで幅800^{メートル}ほどある。
谷底を埋める水田は傾斜30分の1、
農水省の水田区分では傾斜20分の
1以上の急斜地水田を棚田、20分

の1から100分の1までの水田
を緩斜地水田と呼んでいるので、
根知谷は後者の水田ということに
なる。歩測により20^{メートル}毎の土坡の
高さを測ってみると、80^{センチ}から1・
2^{メートル}、部分的には棚田になるとこ
ろもある微妙な段差、教え子が棚
田と見誤ったとしても責められな
いほどの違いである。

根知谷全体では170^{センチ}の水田
があり、そのなかの下流部分根小
屋・仁王堂く大工屋敷・井口間の
100^{センチ}は1970年代後半に圃
場整備が完了した長方形の整然と
した水田で、完了からすでに30年
以上経過しているので、農家が負

担する事業費の償還も終わっているそう。

各圃場は長野県小谷村に通ずる塩の道でもある県道が農道に面しており、道路、農道からは機械類がスムーズに入ることのできる進入路が設けられている。用水は根知川から取水、パイプで配水され、バルブを通して自動的に灌水が行われる。このように整備された水田だったことが、後に酒造会社や建設会社の農業法人の参入を可能にしたものと考えられる。

京都の酒蔵から暖簾分け 自家栽培米でブランド酒造り

酒造会社の代表社員であり、農業生産法人、株式会社根知ライスファームの社長渡辺吉樹さん52歳に会うことができた。渡辺さんは、同じ糸魚川市でも日本海に直接注いでいる早川谷の集落宮平の出身。父が教員、母が保母さん、水田80㍏を耕作する兼業農家・大島家の次男として育った。したがって就職に身を置く両親を助け、兄とともに高校を卒業するまで農業を手伝い、重粘土質の湿田で大足を履

いて田面を均す冷たくて骨の折れる作業を今でも思い出すそう。

糸魚川の高校を終えて上京、東京の大学を卒業後、3年間リース会社に勤めたが、1987年26歳の時に帰郷、知人の紹介で高校の4年後輩、渡辺酒造店の長女と結婚、婿になった。家族は妻と長男、大学3年生、長女高校1年生の4人。長男は東京農業大学応用生物醸造科に籍を置く学生であり、順調に後継者も育っている順風満帆の一家である。

合資会社渡辺酒造店は明治元年の創業、ブランドの「根知男山」はかつて京都にあった酒造会社から石清水八幡宮に因む「男山」の酒銘を暖簾分けしてもらい、根知という地名を冠して名付けられた。渡辺家は第

二次大戦後の農地解放によって土地を失い、水田をほとんど所有していなかった。婿となった渡辺さんは、酒造りの修業とともに、子供時代から馴染んでいた農作業にも従事、まず50㍏の水田を取得して農家としての地位を築き、自作地と小作地を着実に増やし、2003年には自家栽培米による酒造りを始めた。

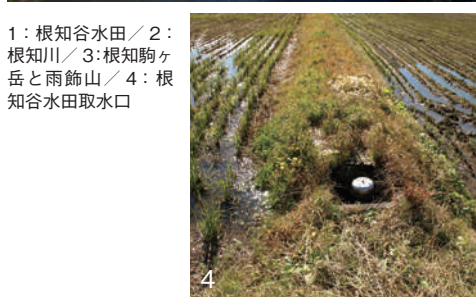
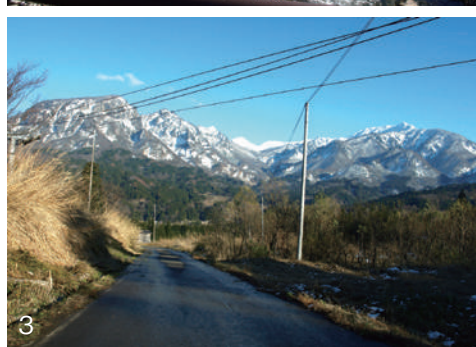
2005年、栽培面積が3㍏になった時認定農業者としての資格を得、2012年農業生産法人株式会社根知ライスファームを立ち上げて社長になった。

農地の集積は、過疎と高齢化により離農する農家が多く着実に進み、2013年自作地3㍏、10㍏当たり1万円の地代を払う小作地8㍏、合計11㍏に達した。将来的には所有

する機械類の利用効率を高めるため酒造りに必要な自家栽培米のために17㍏、その他普通栽培米のために13㍏を確保し、30㍏の米作りを目指しているそう。

酒米は、労力配分を考え早生種、大粒の五百万石60㍏、晩生種、粘り気のない越淡麗40㍏の比率で栽培されている。酒米としてよく知られている山田錦は10月下旬に収穫される暖地性の品種、越後で栽培するのは無理なのだそうです。

米の栽培に使用する機械類は、トラクター3台、田植機2台、コンバイン3台などを所有し、渡辺社長自らもこれらの機械類を操作している。手間のかかる畦塗りは、かつて渡辺酒造の酒米を作っていた契約栽培農家に作業を委託しているそう。



1：根知谷水田／2：根知川／3：根知駒ヶ岳と雨飾山／4：根知谷水田取水口

将来を見越して さまざまな布石を打つ

従業員9名は、合資会社渡辺酒造店と株式会社根知ライスファームの両者に属し、事務職員と生産部門の担当者に分かれる。中心になっているのは高校を卒業した20歳台〜30歳台で、その多くが糸魚川の市街地に住み、自家用車で通勤している。生産部門の担当は6名で、米作りと酒造りを専門とする2つのグループに分かれる。米作りを専門とする3名は冬季酒造りを手伝い、酒造りを専門とする3名は夏季、酒の壇詰めと農繁期の作業を手伝う。

特徴的なのは十数年前から酒造り専門の職能集団杜氏を雇用して



上：株式会社根知ライスファームの社長・渡辺吉樹さん／中：渡辺酒造店外観／下：渡辺酒造店内部



いないことである。酒造りに関する技術指導は、酒造会社の会長である義父と杜氏とともに働いた渡辺さんと現場責任者が担っている。

渡辺さんによれば、杜氏は身体で技能を覚えるため自分も伝統的な杜氏集団のなかで働きながら酒造技術を身に付け、理論的なことは新潟県酒造試験場の先生方から指導を受けるとともに新潟清酒学校の5期生として研鑽を積んだそうだ。今日季節労働の杜氏集団は高齢化と後継者不足でその数が激減しているというが、渡辺さんはそうなることを見越し、杜氏集団に頼ることなく酒造りができる体制を早くから整えていたのである。

これからの計画として従業員の住宅建設に着手したいという。勿

論社員の福利厚生のためであるが、他に水田の水管理に対応するためだ。耕作地は、根知川から用水を取水しているが、川が増水した時、パイプ配水の施設を守るためすぐに取水口を閉じる必要がある。従来水管理は地権者の仕事であったが、将来的には地権者に代わり耕作者が管理するようになるものと思われる。現状では、従業員の勤務時間以外渡辺さん一人に対応しなければならぬが、従業員を会社周辺に住まわせることで、水管理を担わせたいという考えである。

さらに、根知川上流部の立派な石積みだけを残し荒れ果てた棚田の惨状を憂い、根知谷全体の里山里地を守るシステムを作りたいとおっしゃる。その手始めとして事務所ではチップ材を利用したエコストーブを使用しているそうだが、すでに実現している耕作放棄される水田で自ら酒米を栽培し、酒を造り、販売している六次産業化の取り組みこそが根知谷の里山・里地を守るエンジンになっているのではないだろうか。

根知谷棚田へのアクセス



【公共交通】 JR大系線・根知駅下車、駅前より徒歩10分

【自動車】 北陸自動車道・糸魚川IC下車、国道148号線を約8km南下、根知谷入口より5分

棚田との出会い

東京都日野市
山本 徹



左上：岩ノ作棚田をバックに／右上：楽しかった田植え／右：棚田写真展にて



棚田と私との縁は、棚田ネットワーク主催の栃木県茂木プロジェクトに参加したことが始まりです。これまで篠竹伐採・田植え・生き物観察会・稲刈り・餅つきなど、都会では味わえない四季折々の貴重な体験をしてきました。

棚田での活動には、いつも東京の住まいより車で向かいます。都心を抜け、三車線の常磐自動車道を軽快に走ると、左手にポツコリと座っている筑波山が見えてきます。両側には関東平野が広がり、見渡す限り水田が続きます。北関東自動車道へ乗り継ぎ、友部ICより一般道へ下りる頃には丘陵地へと入ります。山間の田舎道を抜け、鮭が遡上する那珂川を越えると、目的地の小深集落に着きます。公民館に車を止め、ここからは歩いて里山へ入って行きます。人しか通れぬ山道を登って行くと、かつて隠し田ではなかったかと思われる棚田が忽然と現れてきます。

最も棚田が賑やかになるのは田植えです。参加者が一列になり目印の付いた紐に合わせ苗を植えると、一斉に後ろへと下がって行きます。

足元ではカエル達が合唱しています。その

カエルを狙っているのか、田の水面を蛇がぐねぐねと器用に泳いでいたりします。

四方を山に囲まれた空には、トンビが旋回しています。毎年繰り返される命の営みの中で、私もひとつの生き物であることを実感する瞬間です。

人間の経済的価値という物差しで計ると、棚田をはじめ、周辺の雑木林、山野に咲く四季折々の野の花などは価値がないものなのかもしれません。事実、関東平野に広がる大規模な稲作の方がはるかに効率的で経済性に富んでいるように見えます。しかし、この小さな里山空間で長年繰り返されてきた生活の縮図であり、何らかの形で自ら係り続けることが、この国の風土を、文化を、国土を守り、次世代へ伝えるために重要だと体感しました。本当の宝物とは、人目に付かずひっそりとあるものなのかもしれません。

会員レポート

棚田からの贈りもの、『里舞』東京公演

東村山市 高野 光世

「里山で生まれた日本のバレエ」。そんなキャッチフレーズで、4月13日に創作バレエ『里舞』の東京公演が行われました。会場の「きゅりあん」(品川区)8階大ホール、千の客席はほぼ満員。熱い期待を受けて、午後3時に開演しました。

舞台は、まず「いのちの章」。大山千枝田の四季を映し出すスライドの後、舞台の上では羽化、地、種、野などをテーマにした舞いが次々と繰り広げられます。20分の休憩をはさんで「みのりの章」は仕事、稲華などをイメージした舞い。そして最後は女神の「神々の詩」の音楽にのせて「ルーツ」と名付けた群舞。約2時間の公演がアツという間でした。

日本のバレエといっても、洗練された侘び・寂びなどの「和風」ではなく、むしろ稲作を共有するアジアにつながる、里や土の香りのするバレエでした。芸術か、それとも芸能か。これからどんな風になっていくんだろう。先が楽しみです。

Photo by Minoru Mizuta



会員のひろば



会員の声募集!



「こんな活動をしています」「こんなことをやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! ご要望、感想やご質問でもOK! (会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて) 〒160-0003 東京都新宿区西新宿7-1-116 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp

棚田に思う



会員さんから寄せられた棚田の雑記。「棚田に思うこと」を語ってもらいます。

棚田の美しさは言うまでもないが、棚田で農作業を行い土地を守り続ける人びとに、私はより惹かれてしまった。

長野県旧中条村を初めて訪れたのは、修士論文の執筆が行き詰まった9月の終わりである。旧中条村の棚田は、いわゆる名のある棚田ではないが、素朴な「ガチ棚田」である。過疎の進行が激しく、中条村は長野市に吸収された。

長野駅から車で30分弱のこの地域は、大自然に囲まれ水も空気もおいしい。田んぼの会代表の小林さんご夫妻が大事にする棚田は、公道の脇の細い、急斜面のガタガタ道を下って行く。軽トラの威力は絶大。「先祖様の土地を守らないと」と、早朝から日が暮れるまで棚田に毎日出かける。小林さんの作るお米も野菜も、絶品だ。虫倉山からおりてくる山の水と、小林さんがいていねいに手をかける仕事があるからだ。

いわゆる「都会育ち」の私にとって、なによりも新鮮でありながら今でもよくわからないのが「土地を守る」という思いだ。中条の人びとは「土着」である。私はこの言葉がとても好きになった。棚田は美しい、外から言うことは簡単。でもその「美しさ」や「おいしさ」は、土地に残る人や関わる人がいるからこそ守られていることを忘れてはいけない。さて、私は何ができるだろう！

(東京都文京区 麻田玲)



中条の棚田を守る小林さん夫妻。とてもあたたかいです。

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



八日目の蟬



2011年 日本／監督：成島出／出演者：井上真央 森口瑠子（瀧陽子）田中哲司 渡邊このみ 平田満 永作博美 他／©2011「八日目の蟬」製作委員会
販売元：アミューズソフトエンタテインメント

もはや棚田通の間では知らない者はいないかもしれない？映画「角田光代原作 児童誘拐などの重い題材を扱いながら「母性」を描いた涙なしでは見られない傑作。物語のクライマックスで登場する小豆島は中山千枝田での虫送りは、シーンを視聴者に強く印象付けると共に地域の伝統復活にも大きく寄与した。江戸時代から続く同地区の虫送りは2006年から途絶えていたが、映画を機に7年ぶりに復活し、今では小豆島を代表する祭りとなっているのだ。棚田での幻想的な虫送りのシーンを是非チェックしてもらいたい。



こめ語り ～イネ・こめ・飯～



浅見悦子（著）
アトリエM&E主宰
名古屋文化短期大学
非常勤講師

¥3,800（税別）
（株）優しい食卓
2014年3月

教壇に立つ傍ら百選の棚田を踏破した著者が「こめ」や「棚田」に対する想いを書き綴った力作。9年の歳月と足で取材した労苦が読み取れる。前半は専門の食文化の視点から「こめ」について詳しく述べている。研究報告の要素を持つているが、堅苦しい内容ではない。イラストをふんだんに使って読み易くまとめている。後半は全国の主要な棚田地域を紹介しており、写真と共に「風土」「伝統料理」の記述は興味深い。「見欲張りな編集にも見えるが棚田と食文化がマッチした書物として棚田ファンにはありがたい。また著者は当会の会員でもあり、他に食をテーマにした書籍を出版している。

青柳健二さん写真展&セミナー 「旧暦のリズムで棚田を味わう」

2014年1月9日～16日 報告 高桑 智雄

三菱商事さん、三菱食品さんの協力で、東京駅前の三菱商事CSRステーション「MCフォレスト」で、写真家・青柳健二さんの写真展を1週間、そして最終日に「旧暦棚田ごよみ」の紹介セミナーを開催しました。セミナー会場は、一般の他、両会社の社員さんも含め、総勢30名程の参加者であふれ、中島代表の棚田のお話、青柳健二さんの二十四節気に合わせて季節の棚田スライドショー、そして佐賀県玄海町浜野浦と静岡県松崎町石部棚田のおむすびを味わいました。



『旧暦棚田ごよみプロジェクト』 2年目シーズン終了!

報告 久野 大輔

発売2年目になる『旧暦棚田ごよみ』、3月まででほぼ完売することができました。ご購入いただいた皆さま、ありがとうございました。

このプロジェクトに関わって、いろいろと調べていくうちに、飽きるどころか、益々旧暦って奥深いなあと感じ込まれていく魅力があります。

旧暦は、農業に密接に関わる暦でもあるので、今年はもう少しそのあたりも詳しく、さらに「見て美しい、読んで楽しい」旧暦棚田ごよみを目指します! 皆さま今年もご期待ください!



棚田ネットワークの
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

イベント レポート Event Report

2月1日に西新宿小学校で開催された
「まちの先生見本市」に棚田ネットワーク
が出展しました。

「まちの先生見本市」は新宿区の各団体が行っている活動を小学生に紹介する出前授業で、棚田ネットワークは茂木チームを中心に紙芝居と糊摺り体験を通して、ご飯が出来る過程を紹介しました。紙芝居は回数を重ねるごとに小学生のペースに合わせる余裕も出てきて徐々に説明型から参加型に…。小道具を使って行う糊摺りはコツと力があるため、特に低学年の子は小さい手に全神経を集中させ、試行錯誤しながら一生懸命もみ殻を取っていました。玄米を一つ一つ数え、「個、殻が取れたよ!」と、とびきりの笑顔で報告してくれ、その純粋な目の輝きがとても嬉しかったです。自分の玄米を嬉しそうに眺めて友達と自慢し合っている姿を、サポートしながら微笑ましく見ていました。小学生の目に映る玄米や稲穂は、私たちの想像以上に輝いていたのかもしれない!

「小学生の先生」となった一日でしたが、小学生の反応はとても素直で、教えながら逆に教えられたことが沢山ありました。小学生の目には好奇心の源がたくさん宿っており、その純粋な好奇心をもっと育てたい!そのきっかけを作りたい!と心から思いました。

(報告 三島 葵)



栃木県茂木町

茂木プロジェクト

今年は企業CSRの受け入れフィールドに



岩ノ作棚田にも春が訪れ、代かきの準備に入っているようです。昨秋は集中豪雨の影響で体験稲刈りが中止になり、参加予定者には大変ご迷惑をおかけしました。

さて今年の茂木スケジュールですが、新年早々に企業様のCSR活動とリンクした米作り体験の協働依頼があり、こちらを実行に移すこととしました。米作りと並行して里山の手入れや草刈りなどの農家支援を目指す活動にも取り組む予定です。このため、米作り体験の一般募集については今年度は見送ることとしました。体験希望の方は他のフィールドを紹介いたします。

企業のボランティア志向も強まっており、これらの活動も積極的に受け入れて行きたいと思っておりますのでご理解下さい。
(上久保 郁夫)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

「かえるの卵を探そう！」開催



コブシの花咲くころ、春の水溜りに卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探す「第7回かえるの卵を探そう!」が2014年3月23日(日)10:00から12:30まで開催されました。参加者は12名、今年も子供連れが多く、赤ちゃんを背負って参加するお父さんもいました。また、東京の大学生や岐阜県立国際園芸アカデミーの学生の参加もありました。棚田ビオトープやヤマアカガエルの特徴などを説明した後、晴天の中、ハイキング気分で6ヶ所で42卵塊(4月1日、6日の追調査でさらに26ヶ所で182卵塊)を見つけました。

ちなみに昨年の結果は11ヶ所で135卵塊。午後参加者と共に調査をと考えましたが、小さな子供も多いので、昼食後の30分ほどで残りの棚田を有志で調査いたしました。

(相田 明)

静岡県松崎町

昔ながらの米づくりプロジェクト

田んぼづくり始めました!



今年で3年目になる石部棚田でのお米づくり体験がいよいよスタートしました。第1回目は3月1、2日に畦切りと蓑口作りが行われました。見事な河津桜(早咲きのピンクの桜)が満開の中、総勢15名での作業でした。今年、昨年より収穫量を上げるために、畦を半分

くらいまで切り、田んぼの面積を広げ、周囲一列分を確保しました。どれくらい収穫量が増えるのか楽しみです。蓑口作りは、常連の参加者が率先して指導してくれました。こちらも昨年の反省を生かして、藁を大幅に増量! 外見がモアイに似ているということで「みのぞう」という愛称がつけました。次回、畦塗りは5月3・4日、そしていよいよ田植えが5月17・18日に行われます!

(高桑 智雄)

菊太屋米穀店大丸梅田店



(株)菊太屋
〒577-0016 大阪府東大阪市長田西4-2-5
TEL:06-6744-1111 FAX:06-6744-1138
<http://www.kikutaya.co.jp>



菊太屋米穀店

もつと、ごはんを
楽しむために。

菊太屋米穀店は、
百貨店を中心に展開する
お米のセレクトショップです。
産地や品種ブランドではなく、
おいしいお米に育つようにと
手間暇かけて作られたお米を、
全国から厳選して販売しています。
手間暇かけた作り手の情熱や
独自の工夫を知って、お米選びを
楽しんでいただきたいと思います。
商品ラベルにその想いを込めています。



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に
協力したい!」という会員によって自
主的に運営されているNPOです。
消えゆく美しい「棚田」をどのように
保全していくことができるのでしょ
う?一緒に考えませんか?ぜひ、私
たちと棚田の応援団になりましょう!

会員に
なると!

年会費

会報誌「棚田に吹く風」(年4回)やイベン
ト案内お届けの他、棚田ネットワークが主
催する各プロジェクト(イベント)への参加
や、スタッフとしての活動もできます。

○個人会員

維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 4,000円
応援会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいた
だけ、企業、団体、事業主さまを募集して
います。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員

1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイ
ズ)は法人会員さまのPRスペースと
して広告や広報にご利用いただけます。
(詳細はお問い合わせください)

編集部から

32年間続いた「笑つていい
とも」が終了しました。人
づてに聞いた話ですが、終了
間際の放送で、タモリさん
にある出演者が「いいともが
終わったら、まず何がしたい
ですか?」と聞いたたら、「オ
レ、棚田に行つてみたいんだ
よね」と答えたそうです。
確かにタモリさんは「傾斜マ
ニア」、ある意味「棚田」は
夢線に触れるのかもしれない
せん。ただ、この32年間毎
日休まず出勤したタモリさ
んは、休まない日本人の象
徴といえなくもありません。
そんなタモリさんが「棚
田に行きたい」というのは、
時代の転換を予想するもつと
大きな意味がある気がしま
す。ぜひ早稲田つながりで、
中島代表と棚田でプラタモ
して欲しいですね!

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイト
イベント情報、ブログ等
随時更新中!!



<http://www.tanada.or.jp>

棚田に吹く風

2014年 春号 Vol.92

発行 NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565